

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>ホーム独自の運営理念をもっている。以下の通り。</p> <p>(1) 利用者が安心して生活できるホームにします。</p> <p>(2) 地域との関わりや付き合いを大切にします。</p> <p>(3) 職員は利用者や家族との交流を大切にし、心の通ったホームづくりに努めます。</p>	○	運営理念は随時、見直しを行い、必要に応じて改定していきたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>管理者はホームの理念を理解しており、それを具現化するために日常的に介護従事者に対して説明を行っている。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>ホームの運営理念を利用案内時に分かりやすく説明している。また併せて文書化もしている。理念の掲示はホームの見やすいところに行えている。</p>		
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>隣近所の人に対して挨拶等を欠かさないように気をつけている。また積極的に話しかけ、交流を持つように気をつけている。</p>	○	ホームの説明会等を通じて今後も理解を深めていただけるよう努力していきたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>ホームの行事等に地元のボランティアを積極的に受け入れている。また、お祭りや一斉清掃等にも積極的に参加をしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホーム便り等を通じて自分たちの経験を公開し、地域の高齢者の暮らしに役立つ情報を発信すべく努力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホームの職員一同は自己評価、及び外部評価をホームの質の更なる向上の機会ととらえ積極的に受け入れ改善の努力をしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者や家族の意見、評価の内容について話し合いを行い、そこで出された意見をホームのサービス向上のために活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者と意見交換は機会が少ないように思う。	○	今後の課題ととらえ交流を通じたサービスの向上を図っていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	過去に成年後見制度の利用の経験があり、その際、同制度について学ぶ機会が持てた。今後、地域福祉権利擁護事業を含めて制度の利用に役立てることができると思う。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待問題について真剣に学んでいる。常に注意を怠らず防止に努めている。また職員のストレス防止にも注意を怠っていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>口頭、及び文書を通じて十分な説明を行い疑問点を残さないように心がけている。今までに理解不足からくるトラブルは経験していない。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者やその家族の意見、苦情等に真剣に耳を傾けている。直接意見を聞くことの他に意見箱の設置等も行っている。それらをサービス向上に役立てるように努力していきたい。</p>	<p>○ 意見箱に対して意見を寄せてくれたことは今までになく、別の方法も検討する必要があるように思う。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の暮らしぶりに関しては口頭で伝える事が多い。金銭管理に関しては利用者別にノートを作って定期的に家族に確認してもらうなど、しっかり管理を行っている。またホーム便りを通じて職員の異動等の紹介を行っている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>定期的に家族会を行いホームの理解を深めていただくと共に家族の意見を聞く機会を設けている。また日常の場面においても気軽に意見を言っただけのような雰囲気づくりを心がけている。</p>	<p>○ 外部の相談者、アドバイザーについては今後の課題である。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティング等を通じて職員の意見を聞く機会を設け、ホームの運営に活かしている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員の配置は業務内容に即して柔軟かつ効果的な配置になっている。また適宜見直しを行っている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員と入居者の関係に気を配り、馴染んだ関係を変化させる際はその影響を最小限に留めるように配慮している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○	職員間の交流も深めていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○	慣れない環境に不安も大きく、孤立感を持っていることを把握しながら職員は接している。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関連施設に医院と老人保健施設があり相談者の状態によってできる限り希望にそったところに入居できるように努めている。また場合によってはその他の施設等も紹介している。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	場合によってはコミュニケーションを控えて本人が慣れてくれるのを待つことも行っている。その際にも家族等とのコミュニケーションは欠かさないようにしている。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の人となりに興味を持ち接している。その際に意外な発見などもあり、面白いと思う。学ぶことも多い。またできる限り入居者の能力を引き出し意欲を持って生活してもらえるように努めている。	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族を支援すると同時に、その協力なしにはホームの円滑な運営は難しい。協力して入居者を支えていけるように、良好な関係を築いている。	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	プライバシーに配慮しつつ適切に行えている。家族との良い関係を築けるよう支援を行えていると思う。	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が持ち込んできた馴染みの物は極力大切にできるように心がけている。私物もできるだけ日常的に使ってもらえるように配慮している。	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の人間関係には常に気を使っている。必要に応じて職員がその仲介等を行っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居時において入居者の退居先への連絡等は文書や口頭で適切に行えている。また退居後の相談等にも積極的に応じている。	○	地域や他の施設などとの、更なる連携に努めていきたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や入居者との対話を通じてその希望の把握に努め、できる限りその希望にそえるようにしている。関連医療機関以外への通院もその希望に応じて行っている人が多い。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の生活歴の把握は文書や口頭を通じて正確に行っており、それをサービスの向上に活かしている。また入居後においてもその把握に努め適宜、変更を行えている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者、個々の状態を正確に把握し記録に残せている。また職員同士の連絡も連絡帳や口頭で適切に行えている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画には家族、本人、関係者、職員の意見を反映し、そのための話し合いも十分、できていると思う。また必要に応じての変更も行っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは定期的に行う他、利用者の状態の変化に常に気を配り、その変化に応じて適宜見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の暮らしに対する詳しい記録を個別に行っている。またそれをサービスの実践や介護計画に活かすことができている。	○	入居者個別の観察に付いた職員間の考えを統一するよう努めたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望や問題はさまざまであるが、それを理解しサービスに反映することができている。柔軟性の有る対応もできている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者の意向に応じてその生活の安定と拡がりのため周辺地域の諸施設からの協力を得られるように理解を拡げる働きかけを行っている。(商店、福祉施設、警察、消防、文化施設等)		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の他のケアマネジャーや他のサービス事業者との連携に努め入居者にとっての最適なサービスを模索し実行していけるように努めている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入退居時の地域包括支援センターとの連携は文書と口頭によって適切に行えている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の訴えに対し協力医療機関の支援が適切に行えるように、その連携に努めている。また希望に応じてその他の医療機関を受診している人も多い。その際の相手先との連携も適切に行えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	協力医療機関の医師は認知症に対する知識が十分に有り、診断や治療は適切に行えている。また職員や家族等の相談にも応える事ができている。	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	健康管理や医療行為に対する看護職員の支援は適切に行えている。看護職員の利用者に対する知識は豊富である。	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	利用者の医療機関への入院やその後のホームへの復帰は過去に事例が多く有る。経験を活かしてその連携とサポートの能力は高まってきている。	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	重度化した場合に備えての家族、医師、職員間の連携は早い時期より繰り返し行っている。過去の事例、経験も豊富にあり、それをサービスの充実に活かす事ができている。	○ 今後、入居者の重度化が進むことが予測される為、更なる充実に努めていきたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	重度化や終末期を迎えるにあたって、ホームでのケアの限界を常に検討している。またその事について入居者の家族、医師、職員間での早い時期より話し合いを行いコンセンサスを得ている。	
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	入退居の際はできる限り本人の意思を尊重しつつ、本人に関わる人たちとの十分な話し合いを通じてその後の生活の充実に貢献できるように努めている。	



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者のプライドとプライバシーには十分な配慮を行っている。そのために必要な日頃からの観察と考察も行えている。	○ 入居者のプライバシーに対する配慮はグループホームの狭い空間では特に難しく、より一層の努力が必要だと思われる。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	時間をかけて対話を行っている。特に相手の話を聞くことに重点を置き、その要求の把握に努め、できる限りその意思を引き出している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活ペースの把握ができています。制約はあるが、できる限りそれを尊重するように努めている。	
(2)その人らしい暮らしを続ける為の基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容と美容はホームで行う他、それぞれの希望の店に行く人も多い。希望に最大限、配慮している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の量や硬さ等は本人の好みに配慮している。また食事の準備や後片付けも自然な形で手伝ってもらっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒とタバコは原則として禁止しているが、その他の飲み物や、おやつ等に関しては希望にそえるようにしている。	○ お酒とタバコに関しては現状では禁止せざるを得ない。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄に気を配りオムツの使用は極力減らすように努力している。入居者の特徴に応じて、トイレの誘導やポータブルトイレの使用を行っている。	○	オムツ使用者は少ないが、現在、排泄が自立している人も含めて今後、状態の悪化が予測される為、必要な備えを行っていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間と曜日はホーム側の都合で決めさせてもらっている。	○	個々の希望を聞き入浴する事は難しい。(職員の勤務時間帯など)
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	各入居者の部屋は落ち着いて過ごしてもらえるように、その人の好みや習慣に応じて生活用品等を調えている。また季節に応じて快適に過ごしてもらえるように配慮している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各入居者の生活歴や好み、習慣等を把握できている。それを各入居者の日々の生活の充実に活かすことができている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を自分で管理している人は多い。それを希望に応じて使える機会を持てるように支援している。また金銭管理の困難な人に対してもその能力に応じてできる範囲の金銭管理を行ってもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の散歩等は日常的に行えている。また車を使っての遠出の機会もできる限り作れるように努力している。	○	外出を定期的に設けたいが、入居者の体調や気分で出られないことが多い。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠くの神社、仏閣や観光地などに出掛ける機会を設けている。喜んでもらえていると思う。家族と共に出掛けられる機会は残念ながら少ないのが現状である。	○	家族と共に出掛ける機会を作るのは現状では難しいが今後の検討課題であると思う。最初から無理だと決め付けずに取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎは適切に行っている。本人の希望に応じてできる限り家族との対話を楽しんでもらっている。手紙についても本人の希望を最大限、尊重している。手紙を出す人も実際に多くいる。プライバシーへの配慮も適切に行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	職員の対応も適切に行うことができ、家族にとって訪問のしやすいホームになっている。訪問者はかなり多いように思う。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在まで身体拘束を行った経験はない。止む無く行うこと想定しての話し合いと準備も十分に行なっている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	過去に止む無く鍵を掛けた経験も有るが、かえって入居者の精神状態を不安定にし逆効果だった。その事を反省し現在は鍵を掛けない方針をたてている。結果は良好である。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を通じて利用者の安全に配慮している。その際、利用者のプライバシーに対する配慮を適切に行い、監視されているように受け取られないように気をつけている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に応じて適切に物品の保管と管理を行っている。できる限り気に入った品物を身近に置いてもらえるように配慮している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	安全に対する配慮は十分に気をつけているが、やはり転倒事故がある。	○	入居者一人ひとりの状態を職員全体で共有し、事故防止に努めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生に備えて定期的に医師の指導の下で初期対応の訓練を行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の避難方法、連絡方法等は日頃から検討、訓練し、いざと言うときに備えている。また近隣の人たちの協力を得られるように日頃から交流に努めている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居前はもちろん入居後家族に対して急変や事故発生のリスクの説明を行い、その際の対応について理解が得られるように努めている。それに基づいて入居者の快適な暮らしの実現に努力をしている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者のバイタルや食事量、排泄の状況等について日々、注意を怠らないことを心がけ、変化があった場合には速やかに対応できるように日頃から話し合い実行している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者が服用している薬については、その効用と副作用を記したファイルを用意し職員皆が理解できるように努めている。またファイルの内容は服薬の変化に応じて更新している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因や、その影響について職員は理解できている。それに基づいて便秘の予防のための対策をとっている。止むを得ず洗腸や服薬を行う際も最小限に止めるように努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアは毎食後に行っている。その際に口腔の状態や食べ物が残っていないか等のチェックを怠らないように注意している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量を主食と副食に分けて入居者ごとに毎食、分かりやすく記録している。また水分の摂取量についても入居者ごとに記録して健康管理に役立てている。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症について医師の指導の下、その防止と対策についての理解を職員全員が得ている。インフルエンザの予防接種は毎年、入居者全員が行っている。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所と調理用具の衛生管理は徹底して行っている。また食品の賞味期限等に気を配り、常に安全な食べ物を提供できるように管理に努めている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や建物周辺の清掃には常に気を配っている。また外から見て親しみがもてるように季節の花などを植えて雰囲気づくりに努めている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れる為、飾り付け等を工夫している。また暑過ぎず寒過ぎないように、温度と湿度の管理を行っている。音や光の具合についても入居者の意見を最大限、反映できるように気を付けている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	トイレ使用時や入浴時のプライバシーに対しては十分に配慮している。ホールや各自の個室において、気の合った利用者同士が楽しく過ごせるように配慮している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の雰囲気や生活用品は本人や家族の意見を取り入れ快適に過ごしてもらえるように配慮している。本人の愛用品や生活習慣を最大限、尊重している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度調節は本人の好みを配慮しつつ暑過ぎず寒過ぎないように気を使っている。また換気扇の使用もこまめに行っている。利用者に快適に過ごしてもらっていると思う。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールや居室内の障害物は気をつけて撤去するように気を配り、利用者の活動を妨げないようにしている。できる限り自立した生活を送ってもらっていると思う。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者に自分で判断してもらう機会を増やし、できる限りの自由な生活をしてもらえるように配慮し、そのサポートを行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	季節や天候を配慮し利用者が外周りやベランダで快適な活動ができるように配慮している。その際の安全確保にも十分な配慮を行っている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(1) 当ホームの理念

- 1、利用者が安心して生活できるホームにします。
- 2、地域との関わりや付き合いを大切にします。
- 3、職員は利用者やその家族との交流を大切にし、心の通ったホームづくりに努めます。

(2) 特徴

関連施設に医療機関と老人保健施設が在り利用者の希望に応じてサービスを選ぶことができる。また利用者の状態の急変時や事故などに対して迅速で適切な対応がとれる点で安心ができる。

(3) 取り組み

地域との付き合いを重視している。ホームの行事などの際のボランティアの受け入れには積極的に取り組んでいる。また近隣の小学校とはホームの開設時からの付き合いがあり、定期的に交流を行っている。生徒さんが来てくれることが多いが、こちらから出掛けていく機会も恒例になっている。